食ライフスタイルに関する研究 (14)

— 中年者の食 LS タイプと食へのこだわりの関連の検討 —

○西川千登世¹・渋谷昌三²・小野寺敦子³、河野理恵³

(¹目白大学大学院心理学研究科, ²目白大学社会学部, ³目白大学人間学部)

キーワード: 食ライフスタイル, こだわり, 中年者

Research on Dietary Life Style (14)

- The relationships between Middle-aged Dietary Life Style Type and Persistence to Eating -
Chitose NISHIKAWA, Shozo SHIBUYA, Atsuko ONODERA and Rie KAWANO
(Mejiro University)

Key words: Dietary Life Style, Persistence, Middle age

【目 的】

昨今、食育や食行動に関連した研究が多領域から多彩な形で行われている。渋谷他 (2009, 2010, 2011) では、食ライフスタイルとして、食に対する個人の持っものの方や考え方、生き方を食ライフスタイル尺度 (食 LSS) として尺度化した。本研究においては、調査対象者を中年者とし、中年者の食への関心のあり方について検証することを目的とする。

【方 法】

調査対象者: 首都圏に在住の 40~59 歳の中年者 1342 名 (男性有職者 412 名, 女性 930 名: 有職者 310 名, パート者 310 名, 専業主婦 310 名) を対象に Web 上での質問紙調査を実施した (注 1)。対象者の平均年齢は 48.90 歳 ($SD=5.25$) であった。

調査時期: 2012 年 2 月。

質問紙構成: 食ライフスタイルに関する研究 (13) のとおり, (a) ~ (k) の内容にて調査を実施しているが, 本研究では, (h) こだわり項目 4 項目, (i) 食こだわり尺度 22 項目, および食ライフスタイルに関する研究 (13) においてクラスタ分類した食ライフスタイルタイプを対象に分析を行った。(h) のこだわり項目については、「美味しいものを食べる」「良い食材を使う」「料理を作る」「栄養に気をつける」の 4 項目に対して「1. 全くこだわらない」~「5. 非常にこだわる」の 5 件法で回答してもらった。(i) の食こだわり尺度は、西川 (2008) の Enthusiasm 尺度の対象に「食」という言葉を入れたものを使用した。なお、本来 3 下位因子を持つが、本研究においては一次元性の確認された合計得点のみを用いた。本尺度は、対象への熱心・こだわりの度合いを測定する尺度であり、得点が高いほど食への興味・関心の度合いが高いことを示すものである。

【結果と考察】

最初に、食ライフスタイルタイプを独立変数とし、こだわりの各項目の合計得点及び食こだわり尺度合計得点を従属変数とした一要因の分散分析を行った。その結果を Table 1 に示す。多重比較 (Bonferroni 法, 5% 水準) の結果、「こだわり項目合計得点」および「食へのこだわり合計得点」ともに、おせち > 気まま > 節約自炊 > コンビニの順に得点が低くなる結果となった。中年者の食ライフスタイルタイプは、具体的なこだわりの対象については、「コンビニ中年」から「おせち中年」へ順にこだわりが高くなり、食へのこだわり、つまり、食べることに関する興味・関心についても同様に「おせち中年」が一番興味・関心を持つ結果となった。

Table 1 食ライフスタイルタイプ別各得点平均値及び分散分析結果

	a. おせち中年 (n=359)	b. 節約自炊中年 (n=342)	c. 気ままな中年 (n=343)	d. コンビニ中年 (n=262)	F 値	多重比較結果
こだわり項目合計	4.19 (0.56)	3.50 (0.67)	3.82 (0.63)	3.11 (0.69)	162.51 ***	a > c > b > d
食へのこだわり合計	3.02 (0.71)	2.35 (0.66)	2.86 (0.72)	2.02 (0.66)	136.70 ***	a > c > b > d

*** $p < .001$

次に、こだわりの項目を用いて K-means 法によりクラスタ分析を行い、食のこだわりタイプをグループ化した。分散分析の結果、食へのこだわりがみられない「こだわり低群」、料理にはこだわっ

て作るが美味しさにはこだわらない「料理こだわり群」、美味しさにはこだわるが料理は作らない「美味しさこだわり群」、すべてのこだわりが高い「こだわり高群」に分類された。それら食のこだわりタイプと食ライフスタイルタイプとの関連についてコレスポンデンス分析を行った (Figure 1)。

Figure 1 食 LS タイプ×食こだわりタイプコレスポンデンス分析結果

その結果、こだわり高群は、「おせち中年」と、料理こだわり群は「節約自炊中年」と、こだわり低群は「コンビニ中年」に近い関係に布置された。一方、「気ままな中年」はこだわり高群と美味しさこだわり群と各々の次元上で近く、美味しさこだわり群は「コンビニ中年」とも近いことが確認された。これらのことから、伝統を重視し、料理も作る「おせち中年」がこだわり高群と近い関係にあるのは妥当な結果であるといえるが、「気ままな中年」がこだわり高群に近いことから、ファーストフードやコンビニエンスストアなどでの便利な食事をしながらも、そこにはこだわりを持って利用していると考えられる。一方、「コンビニ中年」が美味しさこだわり群と近い関係にあることから、こちら料理は作らず、全体的なこだわりも低いながらも、美味しさにはこだわっているということであり、購入する際、何を買って食べるかについてはこだわりがあるということだろう。「節約自炊中年」については、料理こだわり群と近い関係にあったことから、料理はするが食の内容には特にこだわっていないことが確認されたと言えよう。本研究は、異なる世代や属性を対象に食のライフスタイルを検討したものであるが、食へのこだわり、興味・関心という観点から分類した場合、どの対象においても特徴をもった食ライフスタイルが提案できる可能性を示唆したと考える。

引用文献

- 渋谷・小野寺・河野・西川 (2009) 食ライフスタイルに関する研究(1) ~ (4), 日本心理学会第 73 回大会論文集, 221-224.
渋谷・小野寺・河野・西川 (2010) 食ライフスタイルに関する研究(5) ~ (8), 日本心理学会第 74 回大会論文集, 105-108.
渋谷・小野寺・河野・西川 (2011) 食ライフスタイルに関する研究(9) ~ (12), 日本心理学会第 75 回大会論文集, 250-253.
西川千登世 (2008). Enthusiasm 尺度作成の試み 目白大学紀要心理学研究 5, 83-92.

本研究は、平成 22 年度目白大学特別研究費の助成を受けて実施されたものである。

注 1) Web 調査は (株) マクロミルを通じて実施した。